

様式4

令和7年度 第1回大津市公設地方卸売市場運営協議会の会議結果

1. 開催日時 令和7年7月29日（火）午前10時30分から午前11時40分まで
2. 開催場所 大津市公設地方卸売市場 大会議室
3. 出席者 22人 委員 11人（欠席2人）
事業者 3人
事務局 6人
傍聴者 2人

4. 議事

（1）市場の運営方針及び施設改修等に係る調査検討について

【質疑応答等】

<議事>

（1）市場の運営方針及び施設改修等に係る調査検討について

委員：近畿圏の近隣市場の説明があったが、他市場と同じことを行ってどうなるのかと感じる。

大津市場のポテンシャルがどこまで伸びるのかを十分に理解した上で、予測に基づいた施設改修や設備更新が必要である。交通アクセスが良いことが大津市場の強みである。ドラッグストアのような新たな業種が本市場の魅力を感じ、活用したいとの要望に対し、市場設備は、現在の流通に対応していない状況にある。コールドチェーン化は最初に取り組むべき課題であると感じている。

委員：大津市場が果たしている役割、そして今後果たすべき役割についてビジョンが必要である。そのビジョンに沿って、運営方針や施設改修をどのように検討していくのかが重要であり、課題である。そのための情報収集が始まっている段階と考えており、委員の発言も踏まえ、検討を進めていただきたい。

事務局：流通形態が変化し、市場に求められる役割も変わっている現状において、市場の施設がその状況に合っていないことは認識している。他市場の事例も参考にしながら、大津市場にとって最適な方法を皆様の意見を伺いながら検討していきたい。

委員：近年出店が増えているのはドラッグストアである。こうした動きは大津市に限らず見られる。スーパーとドラッグストアの違いをご紹介いただきたい。

委員：ドラッグストアはスーパーと違い、最初の取引先から仕入れが続く傾向があるが、店舗数が増えると、自社で流通センターを建設され、滋賀の市場を利用せず、中央市場等へ仕入れ先がシフトすることが考えられる。（ドラッグストア等の新たな業種に）大津市場を利用してもらえるよう取り組みを進めるべきである。

委員：コールドチェーン化は今後進めるべき重要な課題と考えるが、施設改修は費用対効果の課題があり、直ちに実行できるものではない。一方、ソフト面では一定のルールを整備したほうが良い。例えば、魚の配置場所や加工時の温度管理等、お金をかけずに、まずできることから着手することが非常に重要である。

（説明のあった）京都市場のマスタープランの目標値の設定方法をお聞きしたい。

事業者：目標設定の詳細は把握していない。

入場業者の運用のルール化は重要である。

委員：京都市では、マスタープランを徹底的に議論した上で策定されたと聞いている。その過程でKPI（重要業績評価指標）の設定も考慮されているのではないかと推測する。ハード面だけでなく、市場内部の共通ルールやガイドラインといったソフト面が重要になる。HACCPにしても前提条件となる一般的な衛生管理の部分が非常に大事になる。こうしたソフト面への視点を広げた取り組みをぜひお願いしたい。

委員：他市場では、コールドチェーン化が進むことにより賃料が上昇し、その結果、商売を続けることが難しいという声を聞く。入場業者に対して過度な負担が生じないように配慮いただきたい。

事務局：事業者の負担が増え、商売が続けられない事態を招くことになれば、持続可能な市場を目指すとする本来の目的を達成することはできない。今後、関係者と議論を進めていきたい。

事業者：施設使用料は、入場業者の大きな負担にならないよう検討したい。

同時に、卸売市場の運営が天津市の負担を過度に増加させることのないように検討したい。

－ 以上 －